



秀養邦海

入試のしくみを知って、自分に合う入試タイプを見つけよう！ その①

総合型選抜って何ですか？

特徴

学力試験だけでなく、各大学が実施する評価方法で受験生の個性、適正や意欲を総合的に評価する選抜方法です。

評価方法には、小論文、面接、プレゼン、口頭試問、実技、資格試験の実績などがあります。

出願条件

学校長の推薦を必要としない場合が多い。専願(合格したら必ず入学)の場合が多い。

学業成績 / 併願の可否 / 英語外部検定の成績 / 各大学・学部の設定する実績 等

出願条件を満たす成績や実績の
リミットは**3年1学期末**！

入試方法

共通テストを「課さない」入試と共通テストを「課す」入試の2種類がある。

選抜方法

書類審査 (調査書・推薦書・志望理由書・学修計画書)

志望理由書が一番大切です。
大学のアドミッションポリシーに沿って
「学ぶ意欲」と「将来性」をアピールする。

選抜方法は大学によって異なり、多岐にわたる。
選考期間も長いので、計画的な受験プランを立てて臨みましょう。

小論文

小論文:志望学部学科に関連したテーマについて自分の考えや意見を明確に書く。

面接

面接:アドミッションポリシーに沿った志望理由と将来性をアピールする。

プレゼンテーション

口頭試問:主に理系学部で実施される。受験生の質疑応答の態度や解答に至るまでのプロセスを重視して評価される。普段の授業の先生の教え方から学べる。

口頭試問

学力試験 (大学独自の学力試験や共通テスト)

不合格になった場合も想定して、**総合型出願準備・受験対策と同時並行で学校推薦型選抜・一般選抜の対策も行う。**

入試日程

9月1日～ 出願書類受付 (私立大では7月頃からエントリーが始まることもある)

11月以降 合格発表

総合型選抜は、高校生活で積み重ねた頑張りや大学での研究意欲をアピールできる入試形態です。しかし、リスクもあります(①提出書類等の準備に時間がかかる ②選考期間が長い ③不合格になる可能性 ④他の入試形態の対策と同時並行)。「総合型なら楽勝」と甘く見ると、痛い目に遭います。

総合型選抜での受験は、合格し易い大学への「逃げ」ではなく、**自分の可能性をアピールして第一志望に合格する「攻め」**の姿勢で臨みましょう。

まずは志望校を研究し、自己分析を行いましょう。進学は自分のキャリアパスの通過点に過ぎず、大学に入ることが最終ゴールではありません。志望大学の求める学生像と自分のアピールポイント、目指す将来像がマッチしているかをしっかり確認しましょう。各大学の特徴や各入試タイプのメリットとデメリットを把握した上で、自分が総合型受験に合っているのかをよく考え、不合格になった場合も想定して複数の受験プランを立てておきましょう。